

第31回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2024年1月23日(火) 15:10～17:10
2. 場所 総務省第二庁舎408室
3. 議事内容
 - (1) 日本人延べ宿泊者数推計（1月発表分）都道府県
 - 2023年10月までのデータを用いて11月、12月分の推計結果を報告
 - 11月、12月ともに全国的に見て前年とほぼ同じ水準に落ち着いている
 - また、2019年のコロナ禍以前と比べると宿泊者数は全国的に大きく伸びている
 - 両月とも沖縄県では前年からの伸びが大きい
 - 京都府では前年の水準を下回る結果となっている。「宿泊旅行統計調査」の公表値の動きから類推するに、京都府ではこの1年間で外国人の宿泊者数が大きく増加し、邦人宿泊者数はやや減少しているようである。
 - 9月までのデータを用いた10月推計の統計値との乖離率は、おおむね良好
 - (2) 人流メッシュデータを用いたバス輸送効率性評価方式
 - 評価値1と営業係数には「下に凸の関係がある」と考えられる
 - 評価値2と1日当たり乗車人員には正の相関があると考えられる
 - 人流データからバス路線の公表統計値を推計できる可能性がある
 - (3) 人流データを活用した分析の連携会議への報告
 - (ア) 宿泊者推計の概要説明
 - 公的統計の公表値をほぼシミュレートした値を、人流データを用いて全国レベルで（先行）推計できた点をアピールする
 - メッシュ統計を用いてホテル周辺地区の人数を積み上げて、推計の規準になる指標を作成している点に特色がある
 - ただし、その指標値は宿泊の実績値との間に大きな乖離があり、乖離が生じている明確な理由を現状、十分に説明しきれていない
 - 一般に入手可能なデータを用い、推計の手続きも明確であるため、研究の再現性と援用性が高い
 - (イ) 宿泊者推計結果の分析
 - 指標値が過剰に大きい要因は早朝の経済活動と人流データ自体が保有するデータの誤差・偏りが混合したものと推測できる
 - (4) その他
 - 次回研究会は2024年3月19日（火）15:00～17:00に総務省第二庁舎で開催

以上